

第1回阿南市魅力ある都市づくり審議会 会議録(要旨)

■開催概要

開催日時:令和4年8月16日(火) 10:00~12:00

場 所:阿南市役所 3階 303会議室

・出席者

委 員7名(委員数9名)

事務局7名(市7名)

1. 開 会

開会挨拶(阿南市長)

2. 委員紹介

3. 議題

(1) 会長及び副会長の選任について

委員の互選により、会長及び副会長を選任。

(2) これまでの阿南駅周辺まちづくりに関する取組及び経緯並びに阿南駅周辺まちづくりビジョンについて

(事務局から説明)

阿南駅周辺地区の市街地形成の変遷、これまでの整備実績及び令和3年度に策定した「阿南駅周辺まちづくりビジョン」の概要について説明した。

(3) 阿南駅周辺まちづくり基本計画の策定に向けて(事務局から説明)

今後の議論の進め方、まちづくりビジョンとの関係性、方向性について説明した。

(4) 今後の進め方について(事務局から説明)

令和5年9月末の基本計画策定までの取組のスケジュールについて説明した。

(5) その他(まちづくりシンポジウム開催について)(事務局からの説明)

令和4年9月18日開催予定のまちづくりシンポジウムについて説明した。

(6) 意見交換

[委員]

・多様性として外国人の家族に向けた多言語に対応した取り組みを案に入れてもらいたい。

[委員]

- ・企業が集積した町になるので、日曜日に開いている飲食店等が少ない。市民でも徳島市や藍住等の市外に出かける人が多いと思う。
- ・阿南市で、飲食等をはじめとして完結できるようになれば観光客や市民にとってもいい。旅行者や市民を週末に迎えらるるよう週末の運営状況をどうするかも課題だと考えている。

[委員]

- ・阿南市の強みは何かと考えることが大事で、ハード整備しようとしたらソフトが伴ってくるべきだと思う。阿南の図書館は使いやすく、とても充実していると思っており、図書館がソフトで強みの一つだと思う。
- ・四国の市町村規模で生物多様性の地域戦略を持っているのは阿南市だけで非常に強みである。那賀川町にあるような科学センターを市が持っているのも稀であり、若杉山辰砂採掘遺跡といった価値のある文化財もある。そのような科学・技術の分野も非常に強みの可能性があり、研究センターを設けることで人の交流が生まれるのではないかなと思う。ソフトの強みから見た課題の解決を考えていくのがいいのではないかなと思う。

[委員]

- ・阿南市は県南の中心地であるという捉え方をしている。全体で人口減少や経済の規模が縮小していく中で、自治体としての機能を維持できないようなところの受け皿になるべきであると考えている。
- ・市外出身者として阿南市を見たときに、日亜化学さんが大発展して市に対して非常に貢献度が高いと考えている。これからは、日亜さんみたいに世界に対して付加価値を提供していける市になっていくべきであると思う。
- ・教育や研究開発といった機能が非常に大事になり、そういった意味では図書館は非常に良いと思う。図書館の大きさ等では徳島市にかなわない部分もあるだろうが、市として切り口の違う工業や科学に特化したような図書館があると面白いと思う。普通の図書館の機能に特徴的な図書館機能が加わり、市に住んで一生懸命勉強してみようと思う人たちが集まればすごく魅力のあるまちになるのではないかなと思う。

[委員]

- ・全国で図書館の利用割合について調査をすると、市民の3割程度の人しか使っていないが、他の施設と比べると非常に高い割合を示している。
- ・図書館は、複合施設を以前は避けていたが、最近では他の施設と一緒にするというのは増えてきている。
- ・図書館の大きな役割としては、地域の資料の収集と資料の提供で、どの資料をどのように提供するのが大事になる。また、地域の様々な活動等を知り、触れることができるような、市民の活動をサポートする受け皿として図書館は最適だと思う。

[委員]

- ・地域図書館として本を集めて人々を教育するという観念は世界中でもほぼ廃れており、人々を集めるコミュニティセンターになりつつあり、その機能がもっとも求められるようになってきている。図書館が、本を読むためや調べものをする以外に人々を呼び込もうとするようなプログラムを作っており、多機能という考

え方によって変わってきている世の中になっている。

- ・図書館がまちおこしの中心となり、繋ぎとなるようなものになるべきだと考えている。教養を高めるだけではなく、コミュニティの活動を活発化させ、阿南駅の西側と東側を繋ぐのに使えるのではないかと思う。

[委員]

- ・富岡の中心市街地を立地適正化計画や SDGsに基づいてコンパクトシティにしていくのであれば公共交通機関を充実させる必要がある。
- ・県南部の拠点として、JR四国さんとも協力して徳島・阿南間のJRの本数を増便してもらいたい。
- ・20年計画で駅周辺を全体的にどのようなまちにしていくのかを一番のコンセプトにして、20年後にはより暮らしやすいまちとしてのコンパクトシティ化を目指すという方向性を市長に強いリーダーシップでやってもらいたい。

[委員]

- ・色々な主体にこのまちづくりに関わってもらい、その関係者が熱く語れるくらいの物語を作っていくことがとても大事だと思う。
- ・市民が参画できるまちづくりを具体的にどのように変えていくのかをもう少し長いスパンで考えられたらいいと思う。
- ・デザインがとても大事。動線を人はどう動いて、どのような雰囲気なのか周辺が気になる。芝生広場や本が読める木陰といった全体デザインがあったうえで、施設のデザインができればいい。

[委員]

- ・全体を考えてその中で東側がどう位置づけられるかという考えが大事。
- ・駅は中心市街地の中心そのものだと思うので JR の方には何らかのかたちで参画できるようにしてもらいたい。

[委員]

- ・地方都市の図書館関係では、8割程が車で利用されている。
- ・車と公共交通機関、ウォークブルという歩くことをここで実現していくのかということが大事。
- ・島根市の海士町では小さな本棚を色々なところに置いて、島まるごと図書館としている。
- ・施設を一つだけ作ってもまちづくりというのは多分できない。
- ・交通手段といったアクセシビリティが非常にポイントで、図書館の滞在時間は15分から20分ぐらいが一番多い中で、図書館以外でも過ごしてもらえようものを考えていく必要がある。

[委員]

- ・市民の意見の中に駐車場を用意してほしいというのがあるが、そのまま作るだけでは車を使える人だけが来て、そのまま帰ってしまう。歩き回ってもらうためにもネットワークが必要。
- ・阿南の近くの人に来るように自転車という手段も考えなければいけない。また、歩いていけるというのも大

事だが、誰もが歩かない。それは歩いていても楽しくないからである。

・まち全体を楽しくすることと図書館に色々な人に来てもらうということは別のことでなくて完全にリンクしていることだと思う。

・一つのアイデアとして、図書館の駐車場を少し離れたところに作れば少しは歩いてもらえる。その間に公園を作ればまちに出てもらえたりするというような工夫ができるのではないかと思う。車の客に対して、一方的に便利にするというのは上手くいかないだろうと思う。

3. 閉 会

閉会挨拶(阿南市長)